

看護ケア推進たより 12号



独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院
Japan Community Health care Organization Osaka Hospital

2016年11月

「第10回 ケア連携の会報告」

平成28年9月12日に第10回ケア連携の会を開催いたしました。27施設48名の方々と当院職員43名という過去最高の計91名が参加しました。今回は、初めての試みとして、訪問看護ステーション此花の楠原看護師から「退院決定が二転三転したターミナル患者の地域連携を考える」というテーマで、事例提供頂きました。加えて、担当ケアマネジャー・病棟看護師からも情報提供頂きました。退院決定が二転三転した中での本人の病状変化について、経過を見ている病棟看護師と合同カンファレンス後から退院までの期間があったなか、在宅側で病院側が言った「変わりないです」という言葉の認識の違いが浮き彫りとなった事例でした。グループワークでは、病院の医師・看護師と地域の多職種の方々から本音の意見が出たことで、お互いの体制・状況を把握でき、本人・家族への共通した思いを共有でき、「病棟との連携を取る際の敷居の高さが緩和できる様な話ができたとの意見を頂きました。それぞれの思いを直接話すことで、課題を見出すと共に、思い込み・ズレの無いように、“もう一声”をかけて“一つ一つ丁寧に”連携していく大切さを実感した会となりました。(医療福祉相談室 玉利 由佳)

「顔のみえる連携」から「本音の言い合える連携」へとケア連携の会の方針をステージアップしました。今後も地域と一体となった活動を進めてまいります。(看護部長 田中小百合)



<今後の開催予定>

開催会	開催日	開催内容
第11回	11月22日(火)	医療・看護トピックスの情報提供
第12回	2月14日(火)	事例検討会

「行ってきました！健康講座」



- ◇ グッドライフケア大阪のケアマネジャーの方よりご依頼を頂き「糖尿病について」というテーマで、病態から合併症、治療まで幅広く健康講座をさせて頂きました。当日は、9名のケアマネジャーの方々がご参加くださり、皆で頭をつき合わせての健康講座となりました。在宅での生活を支えておられるケアマネジャーさんだからこそ、悩んでいるケースのお話なども聞かせていただき、意見交換もできました。また、実際にインスリン注射器や血糖測定器にも触れていただき、特徴や取り扱い時の注意点についてもお話させていただきました。糖尿病を持ちながら生活することは、容易いことではありません。その生活を支えているケアマネジャーさん方からこのような機会を頂けたことで今後も連携を深めていければと思います。

(糖尿病看護認定看護師 吉田多紀)

- ◇ 手話サークルふじの皆様にお招きいただき、「家族や友人が目の前で倒れたら」というテーマでお話しさせていただきました。主に救急車への通報と心臓マッサージの演習を一緒に行い、多くの方に人形で体験していただきました。聴覚障害がある中で緊急時にどのように通報したらいいのかと困られている方も多くおられ、何かあった時に頼れるご近所の方や家族に連絡する方法、大阪市緊急通報システム等の事業の使用などの情報交換も多くできました。これからも地域の皆さまの健康づくりのお手伝いができるよう努力していきたいと思います。

(救急看護認定看護師 松山佳子)



グッドライフケア大阪の皆様



手話サークルふじの皆様

「今後のイベントのお知らせ」



第2回フットケア・スキンケア検討会 -診療科・職種を越えて語ろう！-

日時/場所 : 2016年12月10日(土) 13:30~17:00 JCHO 大阪病院 (6階 講堂)

対象 : 全職種(医療職・介護職)どなたでも参加できます

内容 : 症例検討会(地域でよくある困った事例を2例)、フットケアナースお悩み相談コーナー

講演 ①糖尿病合併症と足のスクリーニングに関する知識 ②下肢静脈瘤の治療とケア

主催 : JCHO 大阪病院フットケアチーム

「きらり☆リンクナース」 ～緩和ケア実行委員会～

連載 VOL.4

今回は緩和ケア実行委員の2名にリンクナースの活動について語って頂きました！

- ◇ 緩和ケア委員会の病棟リンクナースになり2年になります。緩和ケアを必要とする患者様と向き合い身体的苦痛や精神的苦痛を考え、病棟師長やスタッフ、他職種と共にケア方法を検討し関わっています。終末期の看護に行き詰まる事も多く悩むこともありますが、症状コントロールができた患者様の笑顔にも触れる機会も多くやりがいを感じています。課題も多いですが、緩和ケアを必要とする患者様に対し早期から介入できるよう対象患者様を把握し、必要時チームへ依頼できるようスタッフへ働きかけ病棟リンクナースとして日々努力していきたいです。

(11階西病棟 天野 里恵)

- ◇ 外来に配属されて5年、緩和ケアリンクナースになって2年になります。外来では、時代の変化とともに対象者のニーズも多様化し介入困難な症例が増加しています。困った時にはカンファレンスを開催し、限られた時間の中で活発な意見交換を行い、看護の方向性を導いています。これは外来看護師の強みであり、知識と長年の豊かな経験から得られた看護観が影響していると思います。また、「緩和ケアは告知されたところから始まる！」と言われていました。診察時の対象者の些細な変化をキャッチし、ケアを提供できるようにしていきたいです。外来に来られる全ての対象者を把握することは困難ですが、「退院時初回」や「継続看護」のコメントがあることで、介入が必要な方をキャッチしやすくなりました。今後も地域・外来・病棟の垣根を越えて、合同カンファレンス等の場で対象者にとって必要なケアと一緒に考え、連携していきたいと考えています。よろしくをお願いします。

(産婦人科外来 池内 葉子)



11 西病棟



一般診療外来

新メンバーの紹介

10階西病棟 皮膚排泄ケア認定看護師 長谷川真紀



初めまして！10階西病棟の長谷川真紀です。今年度皮膚・排泄ケア認定看護師を取得しました。まだまだ勉強段階ですが、創傷管理・排泄管理を必要とする患者さんとその家族への支援を通して、学んできたことを活かして少しでもみなさんのお役に立てたらと思っています。褥瘡回診などで皆さんにお会いすることがあるかと思えます。気軽に声をかけていただけたらと思います。これからよろしくをお願いします！

手術室看護認定看護師 高橋看護師さんへインタビュー

～教えて高橋さん！スペシャリストになろうと思ったきっかけ、今の思いとは～



手術室看護認定看護師になろうと思われたきっかけは？

就職してから手術室で経験を積み、手術室における多職種とのチーム医療の魅力にはまっていきました。麻酔の影響や難しい術式も多く、より専門性を高め、合併症を最小限にする為の知識を身につけたいと考え、認定看護師を目指しました。



手術室における認定看護師の役割について教えてください。

実践を数値化できれば、当院の手術室看護の質の高さを様々な人に根拠をもって伝えていくことができると考えています。また、院外の新たな取り組みについて情報を得ることは、院内の看護力を高めることに不可欠と考えています。



実践の結果を見える形で示すことが大事ということですね。今、どのような取り組みをされていますか？

術中の低体温の予防が様々な合併症予防に重要と明らかになっています。手術中の体温管理を36度以上に保てるように様々な部門に働きかけてきました。次は入室前の保温、術衣の素材の変更や麻酔導入時の保温対策についても取り組んでいきたいと考えています。



高橋さんの熱い🔥情熱が伝わってきました！他の部署の人も相談してもいいですか？

もちろんです。手術に関するどんな疑問や相談にもお答えさせていただきますので、是非気軽に手術室へご連絡ください。



編集後記

推進だより12号発刊に際し、お忙しい中ご協力頂きました皆様、本当に有難うございました。「ケア連携の会」は第10回目となり、「あ！お世話になってます」と…、なじみの顔も増えました。今回は、新メンバーが増えたこともとても嬉しく思っていますが、外来や手術室の皆様からの心温まるご報告もあり、今後も様々なとりくみや企画をどんどん発信していきたいと思っております。次号もご期待ください！

(看護ケア推進室 中西由香)